

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																					
JAPANサッカーカレッジ		平成14年1月9日		中村 勉		〒957-0103 新潟県北蒲原郡聖籠町大字網代浜925番地2 (電話) 0254 (32) 5357																					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																					
学校法人 国際総合学園		昭和32年10月10日		池田 弘		〒951-8065 新潟県新潟市中央区東堀通一番町494番地3 (電話) 025 (210) 8565																					
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
文化・教養	文化・教養専門課程	サッカー・スポーツビジネス科		平成19年文部科学省告示 第20号	—																						
学科の目的	2年間の現場実習やインターンシップを経験し、サッカー・スポーツビジネスにおける基礎を身につける。また、実際にプロの現場で学ぶことにより卒業後に即戦力となる人材を育成する。																										
認定年月日	平成27年2月17日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	4395時間	1136時間	0時間	3202時間	0時間	57時間																				
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
100人		44人	0人	3人	3人	6人																					
学期制度	■前期:4月10日～7月29日 ■夏期実習期間:7月31日～8月26日 ■後期:8月28日～12月16日 ■冬期実習期間:1月22日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 A(優) B(良) C(可) D(不可) H(保留)																						
長期休み	■学年始:4月1日～4月10日 ■夏季:実習等のスケジュールによる ■冬季:12月17日～1月21日			卒業・進級条件	■要出席時間数の80%以上出席していること ■必要科目単位をすべて取得していること ■学費等に未納が無いこと																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学生コンシェルジュの設置(担任以外の教員による面談等) 保護者宛に活動報告書を送付(保護者との連携) 個別対応(スクールカウンセラーによるカウンセリング)			課外活動	■課外活動の種類 学校周辺地域清掃活動 地域イベントボランティア参加  ■サークル活動: 無																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) サッカー業界(全国のJリーグクラブや地域クラブのフロントスタッフ) ■就職指導内容 個別面談を実施し、本人の希望職種を確認した上で、インターンシップを実施。 授業内外において面接指導や履歴書作成指導を実施。 ■卒業生数 : 16 人 ■就職希望者数 : 16 人 ■就職者数 : 16 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他  (平成 29 年度卒業生に関する 平成30年5月1日 時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JFAスポーツマネージャーズカレッジサテライト講座</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	JFAスポーツマネージャーズカレッジサテライト講座	③	8人	8人												
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
JFAスポーツマネージャーズカレッジサテライト講座	③	8人	8人																								
中途退学の現状	■中途退学者 1名 平成29年4月1日時点において、在学者37名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者36名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更  ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセラーによるカウンセリングの実施 学生コンシェルジュの設置(複数の教員による個人面談の実施)			■中退率	2.7%																						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度:有 <a href="http://mydreams.jp/scholarship">http://mydreams.jp/scholarship</a> ■専門実践教育訓練給付:無																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) <a href="http://www.cupsnet.com/pdf/h28_01.pdf">http://www.cupsnet.com/pdf/h28_01.pdf</a>																										
当該学科のホームページURL	<a href="http://cupsnet.com/about/course/business/">http://cupsnet.com/about/course/business/</a>																										

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

JAPANサッカーカレッジ サッカー・スポーツビジネス科と(株)アルビレックス新潟が連携し、サッカー業界における優れた人材を育成することを目的とする。JAPANサッカーカレッジ サッカー・スポーツビジネス科が(株)アルビレックス新潟と連携し、外部実習等の様々な経験を通して優秀な人材を育成することで、在籍する学生自身にとって卒業後の就職先が広がるとともに、新潟県のみならず日本全体のサッカー選手育成システムを牽引していくことができるような関係を構築する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会で協議された事項および企業からの要請について、JAPANサッカーカレッジ教務部で再度協議し、より実践的かつ専門的な職業教育の実現に努める。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年8月22日現在

名前	所属	任期	種別
国枝 晴隆	新潟県下越地区サッカー協会理事	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	①
武藤 惇史	株式会社アルビレックス新潟	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	③
小出 隆一	JAPANサッカーカレッジ顧問	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	
中村 勉	JAPANサッカーカレッジ学校長	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	
原 朋洋	JAPANサッカーカレッジ教務部長	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	
森 俊輔	JAPANサッカーカレッジ事務局長	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	
竹川 昌彦	JAPANサッカーカレッジ学科主任	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回(2月・8月)開催予定

(開催日時)

第1回 2018年2月10日 16:00～17:00

第2回 2018年8月22日 16:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会にて、より良い人材を育成するために実習時間(期間)を増加することはできないかとの意見があり、次年度カリキュラムで変更する予定。企業より要望があったフィードバックの回数増加については今年度より取り入れている。

## 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

### (1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

JAPANサッカーカレッジ サッカー・スポーツビジネス科と(株)アルビレックス新潟が連携し、サッカー業界における優れた人材を育成することを目的とする。JAPANサッカーカレッジ サッカー・スポーツビジネス科が(株)アルビレックス新潟と連携し、外部実習等の様々な経験を通して優秀な人材を育成することで、在籍する学生自身にとって卒業後の就職先が広がるとともに、新潟県のみならず日本全体のサッカー業界を牽引していくことができるような関係を構築する。

### (2) 実習・演習等における企業等との連携内容

実習において、(株)アルビレックス新潟のホームゲーム運営の業務に携わることで、サッカー業界における仕事の細部を知る。また、クラブ経営実践論では、(株)アルビレックス新潟における各部署より毎回講師を招聘し、クラブ経営・クラブ運営について学び、即戦力となる人材育成を目指す。

### (3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
アルビレックスホームゲーム実習	アルビレックス新潟のホームゲーム運営の各部署における業務の細部について実習を通して学ぶ。	(株)アルビレックス新潟
クラブ経営実践論	アルビレックス新潟の各部署より毎時間異なる講師を招聘し、アルビレックス新潟における経営について学ぶ。	(株)アルビレックス新潟

## 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(株)アルビレックス新潟の推薦を受け、公益財団法人 日本サッカー協会が主催する指導者講習会に参加することを諸規定に定める。毎年10月にトライアルを受験させ、6月(前期)・9月(後期)に受講する。教員自身の指導能力向上を目的とするとともに講習会内容を授業や実習等で活用する。

### (2) 研修等の実績

#### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「日本サッカー協会公認キッズリーダーインストラクター養成講習会」(連携企業等:株式会社アルビレックス新潟)

期間:2018年3月20日(月) 対象:サッカー・スポーツビジネス科教員1名

内容:子どもたちに関わる指導者に対し、体を動かすことの楽しさを伝える指導者の養成を目的とし、実技1.5時間、講義1.5時間のカリキュラム構成

#### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「全国専修学校教育研究会主催教育コーチング研修」(連携企業等:全国専修学校教育研究会)

期間:2017年11月14日(火) 対象:サッカー・スポーツビジネス科教員1名

内容:コーチングを実践できるまでのスキルトレーニングとコーチングのポイントを学習し、深い学びにつながるアクティブラーニングを支える対話力のスキルトレーニングを実施

### (3) 研修等の計画

#### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「日本サッカー協会公認B級コーチ養成講習会」(連携企業等:株式会社アルビレックス新潟)

期間:2018年6月11日(月) 対象:サッカー・スポーツビジネス科教員1名

内容:サッカーの全体像を理解し、基本的な知識・指導力を獲得する講習会

#### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「一般社団法人実践行動学研究所主催リーダー研修」(連携企業等:一般社団法人実践行動学研究所)

期間:2018年8月30日(木) 対象:サッカー・スポーツビジネス科教員1名

内容:学習意欲の低い学生・コミュニケーションが苦手な学生・留学生等について各校の辞令発表やで対応方法などを協議し、自校での指導に役立てることを目的とする。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

JAPANサッカーカレッジが作成した「学校自己評価報告書」について、各評価項目における現状、課題と改善策について報告。あわせて、自己評価の参考資料となる、教職員・学生アンケートの結果や、学校運営状況についてまとめた資料に基づいて学校運営の様々な状況について報告し、各評価委員から、自己点検・評価報告に対する意見を頂き、頂いた意見を今後の学校運営に参考活用する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1. 教育理念・目標
(2) 学校運営	2. 学校運営
(3) 教育活動	3. 教育活動
(4) 学修成果	4. 学修成果
(5) 学生支援	5. 学生支援
(6) 教育環境	6. 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	7. 学生の受入れ募集
(8) 財務	8. 財務
(9) 法令等の遵守	9. 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	10. 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	11. 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会を開催し、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施した「学校自己点検報告書」について、当校に関係の深い9名の評価委員に評価していただいている。委員会において出された意見・アイデア・改善点・改善案を校内にてまとめ、次年度のカリキュラム編成・授業内容・授業時間や期間・担当教員の選定などに役立てている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年8月22日現在

名前	所属	任期	種別
国枝 晴隆	新潟県下越地区サッカー協会理事	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	①
奥山 達之	(株)アルビレックス新潟アカデミーダイレクター	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	③
小出 隆一	JAPANサッカーカレッジ	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	顧問
中村 勉	JAPANサッカーカレッジ	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	学校長
原 朋洋	JAPANサッカーカレッジ	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	教務部長
森 俊輔	JAPANサッカーカレッジ	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	事務局長
板垣 雄平	JAPANサッカーカレッジ	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	学科主任
竹川 昌彦	JAPANサッカーカレッジ	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	学科主任
諏訪 雄大	JAPANサッカーカレッジ	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	学科主任
小池 光徳	JAPANサッカーカレッジ	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	学科主任
山中 惟嗣	JAPANサッカーカレッジ	2017年11月1日～2019年10月31日(2年)	学科主任

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

**ホームページ** ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) ( )

URL: [http://www.cupsnet.com/pdf/h28\\_01.pdf](http://www.cupsnet.com/pdf/h28_01.pdf)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

JAPANサッカーカレッジが作成した「学校自己評価報告書」について、各評価項目における現状、課題と改善策について報告。あわせて、自己評価の参考資料となる、教職員・学生アンケートの結果や、学校運営状況についてまとめた資料に基づいて学校運営の様々な状況について情報を提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	1. 学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	2. 各学科等の教育
(3) 教職員	3. 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	4. キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	5. 様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	6. 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	7. 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	8. 学校の財務
(9) 学校評価	9. 学校評価
(10) 国際連携の状況	10. 国際連携の状況
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

**ホームページ** ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) ( )

URL: [http://www.cupsnet.com/pdf/h27\\_01.pdf](http://www.cupsnet.com/pdf/h27_01.pdf)

## 授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 サッカー・スポーツビジネス科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職実務Ⅰ	自己分析を中心に、就職とは何かを考えさせ、就職に対する動機づけを行う。就職活動のマナーを知り、面接対策等を実施し、就職活動への準備を目的とする。	1通	32	2	○			○			○	
○			就職実務Ⅱ	卒業後の進路（就職）についての方向性を明確にし、自己能力の長所と短所を分析しながら自己PR文作成等を行なう。	2通	25	2	○			○			○	
○			英会話Ⅰ	テキストの内容に即しながら行う各講義で、それぞれの内容を理解しながら、年間を通じて学生が英語で会話することを目的とする。	1通	32	2	○			○			○	
○			英会話Ⅱ	テキストの内容に即しながら行う各講義で、それぞれの内容を理解しながら、学生自らがその状況に応じた英会話ができるようになることを目的とする。	2通	25	2	○			○			○	
○			ビジネス能力	ビジネスマナーや一般常識について、実践や実例を交えながらビジネスの基礎を学ぶ。ビジネス能力検定合格を目指す。	1通	32	2	○			○			○	
○			商業簿記Ⅰ	会社経理の基礎を学び、適切な仕訳・各種帳簿の記入方法・決算整理・財務諸表作成ができるようにする。	1通	64	4	○			○			○	
○			販売士	小売業の商業流通について学び、マーチャンダイジング、ストアオペレーションの知識やモノの流れを学ぶ。	1通	64	4	○			○			○	
○			パソコン実習	映像編集ソフトなど様々なパソコンソフトを使用し、今後も活用できるであろうパソコンソフトの可能性を探る。	1通	64	4	○			○			○	
○			Word実習Ⅱ	文章入力から編集の基礎を学び、一般的なビジネス文章（社外文章、社内文章、案内状など）を作成できるようにする。	2通	25	2	○			○			○	
○			Excel実習Ⅱ	Microsoft Excelを使用した表計算の基礎を学び、Excel検定3級取得を目指す。	2通	25	2	○			○			○	
○			コミュニケーションスキル演習	自己紹介や挨拶等を通じ、コミュニケーションの大切さを知るとともに、基礎的なコミュニケーションスキルを習得する。	1通	32	2	○			○			○	

(文化・教養専門課程 サッカー・スポーツビジネス科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ホームページ作成実習	ホームページビルダーを使用し、ホームページ作成のための基礎を学ぶ。	1通	32	2	○			○		○		
○			プレゼンテーション演習	テーマについて情報収集し、自身の意見を論理的に伝える技術を獲得する。Power Pointを使用しプレゼンテーションする。	2通	25	2	○			○			○	
○			イベント企画・実践Ⅰ	校内で行うイベントを企画し運営する。	1通	64	4	○			○		○		
○			イベント企画・実践Ⅱ	校外（地域）で行うイベントを企画し運営する。	2通	50	4	○			○		○		
		○	企業研究	様々な業種の中から選定された業種（企業）についてグループで研究し、発表する。卒業後の就職を見据えてできる限りの情報を収集する。	2通	203	14	○			○		○		
○			ホームルーム	学科ホームルームの時間を利用し、学生自身が活動内容を報告・発表する。また、他の学生の活動状況を知ることで、自分自身の今後の活動に活かす。	1・2通	57	4	○			○		○		
○			NPO論	NPO（非営利組織）が社会から必要とされてきた背景や経緯、NPOに関連する概念の整理をし、NPOの現状について学ぶ。	1通	32	2	○			○		○		
○			地域ビジネススキル	主に聖籠町、新発田市、胎内市における地域での取り組みについて学ぶ。地域貢献活動をはじめ、商工会議所の活動についても学ぶ。	2通	25	2	○			○		○		
○			クラブ経営実践論	アルビレックス新潟の各部署より毎時間異なる講師を招聘し、アルビレックス新潟における経営について学ぶ。	1通	32	2	○			○		○		○
○			クラブマネジメント	地域スポーツクラブが目指すクラブマネジメントについて、地域とのかかわり方やどのような手法が用いられているかなど実例をもとに学んでいく。	2通	25	2	○			○		○		
○			スポーツマーケティング論	マーケティングの基礎的な概念・理論についての知識を深める。有形・無形を問わず、モノ・サービスを扱う仕事に必要なマーケティングについて学ぶ。	1・2通	57	4	○			○		○		
○			スポーツマネジメント	様々なスポーツイベント・大会運営の実例を参考にしながら、スポーツをより身近に感じてもらうためにどのような取り組みが必要と考えられるかを学ぶ。	1・2通	57	4	○			○		○		

（文化・教養専門課程 サッカー・スポーツビジネス科）平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			データ分析	サッカー競技において、瞬間瞬間に起こるあらゆるプレーについてデータ化し、チームあるいは個人のプレーの傾向について考察する。	1・2通	57	4	○			○			○	
○			イベント実習	地域貢献活動の一環として、サッカーに関わらず地域のイベントに参加し運営に携わる。	1・2通	228	14			○	○		○		
○			企業体験実習（ビジネス実習）	アルビレックス新潟をはじめ、スポーツ関連企業（フットサル場、スポーツショップで実際に業務を体験する。	1・2通	1920	120			○		○	○		○
○			サッカー実技Ⅰ	サッカーをプレーすることで競技ルールを学ぶとともに、選手の視点から見えてくるチーム運営等を学ぶ。	1通	32	2			○	○				○
○			サッカー実技Ⅱ	サッカーをプレーすることで競技ルールを学ぶとともに、選手の視点から見えてくるチーム運営等を学ぶ。	2通	25	2			○	○				○
○			遠征	国内で行われる大会運営に携わり、現場で学んだことを自分たちが企画するイベントに活かす。また国外遠征では海外スポーツビジネスについて見聞を広める。	1・2通	256	16			○		○	○		
○			アルビレックスホームゲーム実習	アルビレックス新潟のホームゲーム運営の各部署における業務の細部について実習を通して学ぶ。	1・2通	228	16			○		○	○		○
○			イベント実習	校内におけるホームゲーム運営を企画・運営する。アルビレックス新潟ホームゲーム実習で学んだことを活かした実践の場とする。	1・2通	456	28			○		○	○		
		○	キッズ指導実践	子どもとの関わりあいから、年少世代への指導に必要な能力を育成し、JFA公認キッズリーダーALL取得を目指す。	1・2通	114	8			○	○				○
合計				32科目	4395時間										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必須科目全ての授業単位を取得すること。各授業80%以上の出席率であること。	1学年の学期区分	前後期
	1学期の授業期間	16週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。